



NPO法人 みどりのゆび

会報 2023年 春号



ゆっくりでいいから、前を向いて1歩2歩と、
その歩みに、フットパスを役立ててください!!

ご挨拶 理事長・高見澤 邦郎

以前からかかわりのあった<みどりのゆび>の理事長職を依頼されたのは確か2016年ですから、もう7年が経ったのですね（そしてぼくも80歳の台に）。理事長になって今更ながら、事務局長・神谷由紀子さんあつての本会とはいえ、余りにも多くの「事務」を神谷さんに背負わせていると改めて気付かされました。そこをなんとかと、フットパス企画の立案、実施の記録作成、さらには会計事務の一部を事務局（田邊・横山・浅黄さん＋高見澤）で分担すべく模索してきました。言うまでもなく前者は「会報」づくりと表裏一体のもので、後者の会計事務はマップ等の販売や会員情報の把握と切り離せません。

「このところの会報は充実している」との声を伝え聞きます。それは実施するフットパスが充実していることの反映でもあるわけで、山田・宮田両理事をはじめ、企画メンバーの尽力に負うところ大です。またフットパスガイドマップ4冊（うち2冊は一昨年に改訂）も多くの方に購入していただいています。刊行物の売上げ（および納入される会費）は会運営の要であって、有り難い次第です。

またホームページの充実が一役買っているのでしょうか、フットパスに初めて参加される方が増えているのも嬉しいことです。4月から夏にかけても、巻末に掲載の8本のフットパス・スケジュールを元気に実施していきます。皆さん、是非ご参加ください。

ウクライナ国民の悲しみ・苦しみに心を傷め、まだまだ続くコロナ禍に恐れを抱きつつも、日常は進んでいきます。困難の中でも、強くかつ柔らかい気持ちを持って暮らしたいものです。その一助に、フットパスも役立てばと心から願うところです。

あと、付け加えておきたいことが一つ。昨年春に多摩都市モノレールの町田延伸ルートが発表されました。多摩センター駅から南に進む路線は、我々のホームグラウンドである小野路一帯を通過するようです。実現するとしても遠い先のことはありますが、関心を持っていただきたく別紙にまとめてみました。

是非ご一読いただき、ご意見をお寄せください。



フットパス専門家講座
浜田山から千歳烏山へ
公園・川・建築をめぐる
〔講師：高見澤 邦郎〕

ごく最近整備された大きな公園と
100年前の震災後に整備された
「浴風園」& 烏山寺町を歩く

2022年10月1日(土) 天気：晴 参加者：11名

秋のフットパス第1弾は快晴に恵まれた日の朝、井の頭線「浜田山」駅から出発。最初は数年前に開園された区立公園の探訪で、10分ほど歩き「柏の宮公園（4.3ha）」に到着。元勸銀グラウンドを区が取得し、大きな公園として2004年に開園した。伸びやかな芝生にたくさんの家族連れが遊んでいました。そこを出て数分、「パークシティ浜田山」へ。三井不動産が2010年頃に開発したマンション群と戸建て住宅が広がる8.4haのエリアで、元は「三井上高井戸運動場」でした。区内で最も高価なマンション・戸建てでしょう。（皆さんの感想）「どんな人が住んでるんだろう」、「普段着じゃ出歩けないわね」とか。



修復保存された「三井倶楽部ハウス」

開発前の区や地元との協議で、昭和初期の“倶楽部ハウス”が修復活用されることに。室内には入れませんがテラスでは自由に休めます。その西にある「区立三井の森公園」もこの運動場の一部で、開発に伴って区が取得し、極力手を入れない自然保全型公園として2010年に開園されたもの。

北に進むと「区立高井戸中学校」。昭和50年頃、『アンネの日記』を学び、アンネのバラのことも知った中学生たちが感想文を小冊子にまとめました。それをアンネの父親、オットー・フランクさんに送ったことがきっかけで3本の苗を送って貰えることに。以後、後輩たちが大事に受け継ぎ育て、春秋に美しく咲いています（ほんのちょっと咲き出したオレンジ色の花を見ることができた）。

次いで、「松本清張旧宅」を通り（清張さんのこと、小説のこと、会話が弾んだ）神田川沿いを歩き、井の頭線を渡って「杉並清掃工場」に到着。いわゆる東京ゴミ戦争を経て建てられた象徴的な施設です。騒動の経緯を展示するコーナーや焼却熱利用の足湯・プールも整備されています。さてこれで午前の部を終了。



井の頭線踏切から見る杉並清掃工場の煙突

午後の部はまず駅至近の「芝田山部屋（スイート親方!）」と「高井戸教会（外苑絵画館を設計した小林正紹による）」の前を歩いて「浴風園」へ。ここは関東大震災後の1925年、政府の肝入りで開設された日本で最初の高齢者施設で、今も残る本館・礼拝堂の設計は東大総長も務め安田講堂なども手がけた内田祥三が主導した。スクラッチタイル貼りの、強固な印象を与える建物です。広い園内には近年に建替えられた特養ホームや病院が並びますが、樹林も豊かな素晴らしい環境です（私もここに入りたいとの声アリ）。



本館を背景に記念撮影

病院西門から歩いて10分ほど、「都立高井戸公園」にたどり着きました。元はNHK・王子製紙・印刷局のグラウンドでしたが、都が取得し数年前に開園。震災等に備えた防災公園です（まだ整備中で完成時には20haほどになる）。公園の西口からさらに10分ほど歩いて「玉川上水」に着きました。

今も流れる上水を中央に残しその左右に元からの桜並木がある緑道、さらに左右に各2車線の車の道路と歩道、住宅に面しては環境緩衝帯もある幅員60mの「東八道路久我山区間」で、長い地元との協議を経て最近開通しました。



広い草原、都立高井戸公園

さて緑道を少し歩いて左折10分、世田谷区に入って本日の最終目的地、烏山寺町に到着。ここには関東大震災後に下町（浅草、本所、芝など）から移ってきた26ヶ寺が並びます。代表的景観である「高源院」の鴨池を見て、あとは見たいお寺を各自でとして解散、京王線千歳烏山駅へと向かいました。



烏山寺町「高源院」の鴨池

あまり起伏がないとはいえ15kmほどを歩き少々たびれましたが、バブル崩壊後の企業グラウンドが変身した大きな公園、「神田川」&「玉川上水」、そして震災の申し子の「浴風園」&寺町…。新旧の風景を体験しました。お疲れさま。

（文：高見澤 邦郎 写真：浅黄 美彦）

ありがたい「終の住処」を訪ねて

10月に入ったにも拘らず真夏日ほどの眩しい日差しの中、浜田山から高井戸、久我山の成熟した住宅街を粛々と歩いた一日でした。今回のルートを色で表現するなら、緑色。

10月なので新緑の〈笑う〉ではなく、ましてや中秋であっても〈粧う〉紅葉には時期尚早。それでも個人宅の庭木や生垣と、広々とした公園の芝生や木立、玉川上水沿いの緑道に茂った常緑樹などの緑の多さが、印象に残ります。



旧財閥のグラウンドも市民の憩いの場に

今回訪れた地域は、「環境遺産」とも言えます。明治から大正、昭和にかけて先人が取り組んだ、高齢者施設の「浴風園」や烏山寺町の一角、はたまた旧財閥が残した厚生グラウンドなどがレガシーとして、地域に引き継がれて来たことを再認識しました。
（文と写真：蔵 紀雄）



高井戸教会(写真：浅黄)



フットパス専門家講座
懐かしみながら
最近人気再燃気味の江ノ島を歩く
〔講師：浅黄 美彦〕

観光地、門前町、漁師町、遠足の地
など
様々な顔を持つ江ノ島を楽しむ

10月22日(土) 天気：曇 参加者：10名

小田急江ノ島線「片瀬江ノ島」駅前に午前10時集合。2020年に改築されたばかりの駅舎は、1929年の開業当初に建てた竜宮城風の外観を継承して旅心をくすぐります、早速駅舎の前で記念撮影（集合場所がいいとワクワク感が高まるのかもしれませんが）



小田急片瀬江ノ島駅前にて記念撮影

<片瀬江ノ島駅からカトリック片瀬教会> 和風の教会とそれに至る道（パス）。

最初に訪ねるのは、「カトリック片瀬教会」。片瀬江ノ島駅から北へ歩くと旧片瀬村の山本家による昭和初期の別荘分譲地。そこを5分ほど歩くと、「境川」の畔に和風の聖堂があります。



カトリック片瀬教会外観

教会の創始者・元海軍少将山本信次郎氏が、1939年日中戦争下に建てた教会です。格天井とフレスコ画が併存している不思議な内部空間に魅せられます。



教会の内部

川沿いの心地よい遊歩道を河口まで下ります。町田市相原の源流から江ノ島に流れ込む「境川」の流路を体感したような気分です。

<江ノ島弁天橋から湘南港ヨットハウス> 波打つ屋根の現代建築を訪ねる。

「江ノ島弁天橋」を渡るといよいよ「江ノ島」。青銅の鳥居をくぐり、まっすぐに参道を進めば王道の江ノ島観光となります。今回は少し寄り道して島の北端にあるヨットハーバーを訪ねてみました。2014年に改築した「湘南港ヨットハウス」は、波打つようなシンボリックな屋根をもつ現代建築です。東京オリンピックのセーリング競技の拠点でもありました。内と外が曖昧な2階のスペースからカッコイイ階段を上ると、津波避難施設を兼ねた屋上でした。



中津宮から見た湘南港ヨットハウス



湘南港ヨットハウスの内部

<湘南港ヨットハウスから集落の道> 集落の細道と路地を歩く。

ヨットハーバーの真っ白い透明感のある現代建築から、島の北側の崖下にある集落の細道を参道に向かって歩く。漁村の集落構造が残る島の日常生活を感じることができる道を歩くのも悪くない。細道から崖に向かって延びる路地は迷路のようでした。



江ノ島 集落の道

<弁財天仲見世通りから江ノ島神社、サムエル・コッキング苑> 観光地を歩く。

さてさて、片瀬江ノ島駅から寄り道を重ね、「弁財天仲見世通り」の入口「青銅の鳥居」にたどり着く。参道の店で求めた女夫（めおと）饅頭を食べ歩きしながら、さらりと王道の観光地を流し、脇にある伊東忠太設計の大正期に建てられた「児玉神社」を見る予定でしたが、残念ながら工事中で断念。

気を取り直して坂道を上り「サムエル・コッキング苑」を目指します。

島のとっぺん、本来ならば神聖な場所のような気もしますが、そこになにゆえ洋風庭園があるのかという素朴な疑問に、「明治初期、グラバーのような武器商人が巨万の富を得て、神仏習合の解体でゆれる神社から土地を取得し、庭園付きの大別荘をつくる」という容赦のない解説が資料館の映像で答えてくれました。



シーキャンドル（展望台）からの眺望 境川河口あたり

昼食はサムエル・コッキング苑内でお弁当組と、海が見える「海花亭」で名物のシラスかき揚げ丼のグループに分かれて。

午後は「奥津宮」でお参りし、「稚児が淵」に下りる石段からの富士山の眺めを堪能しつつ、江ノ島の最深部「岩屋」へ。初めての方、小学生の遠足以来半世紀ぶりの方などさまざまでしたが、結構楽しんでいただけたようでした。フットパスコースに観光地の王道の場所を入れるのも悪くないという感想もいただき、解散としました。

（文と写真：浅黄 美彦）



見晴亭からの富士山



江ノ島の岩屋

グルッと江ノ島を巡って

小田急線「片瀬江ノ島」駅を出ると、駅前を「境川」が流れています。この境川は町田市相原辺りに源流があると説明があり、「あの町田市と相模原市の境を流れている川が……」と、元町田市民の私は見慣れた景色を思い浮かべ、江ノ島を身近に感じたことでした。

午前中は主に建物(木造和風造りの教会や「湘南港ヨットハウス」など)を、午後は観光地としての江ノ島(江島神社群や「サムエル・コッキング苑」、展望台など)を巡りました。

コッキング苑では明治の頃の異国風の花壇遺稿が保存され、また源頼朝が寄進したと伝わる鳥居のある3つの「江島神社群」の1つが放送中の大河ドラマにも関連するからか、若い人から家族連れまで予想以上の賑わいでした。

当日は明るい湘南のイメージと違って、日が差さず海風が強い一日でした。そんな中で賑やかで大勢が集まっている場所が。なんとそれまで気づかなかったのですが、「富士山」が霞んで見えるのです。やはり富士山って特別ですね！ この富士山に見守られながら、潮風が香る江の島をグルッと楽しみました。

（文：新納 清子）

フットパス専門家講座
東京都薬用植物園・玉川上水緑道
[講師：日本植物学会副会長 山田隆彦]

ちょっと珍しい植物園、
秋の植物観察をしましょう

11月5日(土) 天気：晴 参加者：5名

薬用植物園では、薬用植物だけではなく、園芸植物、野生植物、海外のものなど種々の植物が見られます。しかもほとんどに名札が簡単な説明とともに付けられているので、その植物のことが知ることができ有難いです。写真を撮るときには、名札も別に撮っておくと、後の写真整理も楽にできます。

この植物園にはたくさんの種類が植えられており、一日中居てもあきません。今回の観察会でぜひ見ていただきたいかったのはサフランです。サフランの花は赤い雌しべがとてもきれいです。これから黄色の色素をとり、染料や香料などに使われています。特に、古代ギリシャではサフランの黄色を珍重し、王族だけが使用できるロイヤルカラーとされていました。アヤメ科の植物で西南アジア原産です。ギリシャで最初に栽培されたと言われています。花期は10～12月で、橙赤色の三本に分かれた花柱が特徴です。よく似たものにイヌサフランがあります。「イヌ」がつくと役に立たないことを意味しますが、アルカロイドを含む毒草です。花期はサフランよりも1ヵ月早く9月ごろから咲きだし、赤い雌しべはありません。私たちが訪ねたときはすでに花は終わっていました。



サフラン

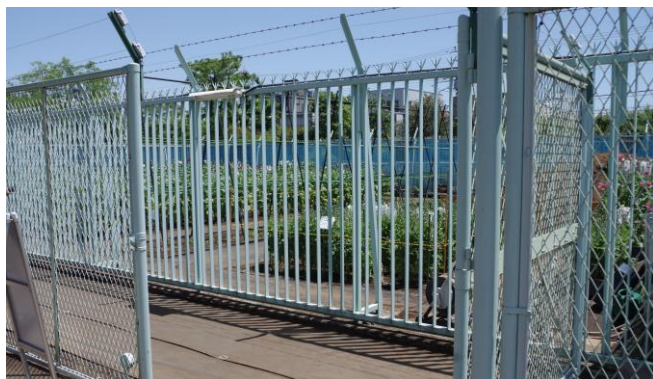
次に見て欲しかった植物はカンレンボク(早蓮木)です。中国雲南省原産で、別名をキジュ(喜寿)といいおめでたい木として、喜寿になった方に記念で贈られるという話をよく聞きますが、大木になる木をいただいてもちょっと困ります。

訪ねた時は、ちょうど実がなっていて、その形はパイプユニに似ています。別な表現をすると、ごく小さなバナナの実が球状に集まった姿をしています。果実や根には抗がん作用の成分が見つっているそうです。



カレンボクの実

この植物園が他の植物園と違うのは、法律で禁止されているケシの栽培をしていることです。医療用や研究用の栽培ですが、監視カメラが設置された厳重な二重の鉄柵の中で栽培されており、5月には色とりどりのケシの花を鉄格子の外から楽しめます。



ケシ栽培

菊の種類もいくつか植えられています。黄色の花のキクは、シマカンギクとキクタニギクです。シマカンギクは関西以西に分布し、キクタニギク(別名アワコガネギク)は本州と九州に分布します。葉の切れ込み方とか、頭花の大きさなどの違いがありますが、パッと見た目ではよほど慣れないと区別できません。中部地方以北で黄色の花の野生のキクはキクタニギクと見てよいです。



シマカンギク

キクタニギク

リュウノウギクも満開でした。名札には、「民間療法で、冷え・神経痛・浅い外傷などに入浴剤として使用」とあります。このキクは、小野路などで簡単に見られます。



リュウノウギク

アカザ（右図）の茎が残っていました。アカザは老人の杖にするには、軽くて丈夫で最適です。水戸黄門もこれを使ったとか。名札には「若葉は食用になるが、多食すると日光皮膚炎を起こす」とあります。東京近辺では、シロザのほうがずっと多くみられます。アカザの赤く見える部分は、粉状毛(水毛)といい、多くの水を含む細胞で、ここに赤い色素が入っているの赤く見えます。



野草園では、リンドウが満開でした。町田の里山や晩秋の山野で咲く最後の花です。「リンドウの花びらに見られる緑色の斑点に葉緑体があり、光合成を行っていることが発見されています」と、「みどりのゆび」で一昨年、小野路を案内した多田多恵子先生が『趣味の園芸』に書かれています。名前は漢方の「竜胆」からで、センブリと同様に苦味があり、健胃剤として用います。



リンドウ

帰りは「玉川上水」沿いに玉川上水駅まで、溪流沿いに生えている木々を楽しみながら散策しました。私も皆さまと一緒に楽しめました。
(文と写真：山田 隆彦)

植物の観察にお勧めのユニークな植物園でした。

初めての訪問です。医薬品の原料となる薬用植物などを収集・栽培。ケシ・アサといった麻薬や危険ドラッグがとれる植物も試験栽培しているユニークな植物園です。身近な植物含め約500種の野生植物と1,500種の栽培植物。すべてタグ付、植物名と生薬としての名前、用途などが説明され、身近な植物にこんな用途があるのかと、読むのも楽しかったです。山田先生も、よく花の写真とタグを撮りにくるそうです。その後、山野草の写真などで「東京都薬用植物園」が撮影場所として記載されている記事が目につきました。

普段は、春の花を楽しんでいる植物も、秋に実をつけている様子を見ることができました。いつもは花を見るだけですが、今回、初めてびっしりと詰まったスマレのタネを見ました。



スマレのタネ

また、春に鮮やかな黄色い花が楽しみなサンシュユですが、秋には真っ赤な実でアキサンゴの別称も。民間療法では薬用酒にして強壮剤として利用。また、ナツメの実は、乾燥した果実は食材でもあります。タイソウ（大棗）という生薬で、葛根湯や小柴胡湯など主要な漢方処方構成生薬だそうです。林地では、黄色いヤクシソウの群生が見事でした。



サンシュユの赤い実

ヤクシソウの群落

(文と写真：田邊 博仁)

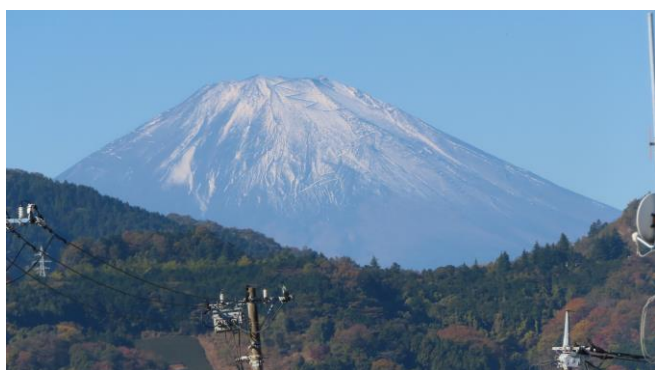
他のまちのフットパスをみてみよう
丹沢の清流・四十八瀬川と
秦野戸川公園を歩く

〔講師：田邊 博仁〕

表丹沢の台地に広がる里山風景と
紅葉に癒されるフットパスコース

11月19日（土）天気：快晴 参加者：10名

リピート希望の多かったコースです。
青空に富士山がくっきりの快晴、フットパス日和でした。



渋沢駅からの富士山

ZARDの駅メロが流れる小田急線「渋沢」駅からスタートです。渋沢駅では接近メロディにZARD「負けないで」（上りホーム）、「揺れる想い」（下りホーム）が流れます。ZARDのボーカル坂井泉水さんが、学生時代、デビュー後も使っていた駅、東口に由来の碑があります。

駅近くの「国栄稻荷神社」に寄り道。ここは昔、東西に通る矢倉沢往還と渋沢峠を経て小田原に至る小田原道が南北に交差し、大山や富士参詣をする人々で賑わったという。



国栄稻荷神社にある大山堂、矢倉沢往還の石碑

どこからでも丹沢の山並みが見える快適な風景が続きます。丹沢をよく歩いた会員の佐藤（英）さんに解説をしていただきました。右から二ノ塔、三ノ塔、烏尾山、行者岳・・・塔ノ岳と山並みが続きます。



丹沢の山並みの説明

「小田急はたのテニスガーデン」から急な下り道を抜けると「四十八瀬川」の清流に出ます。市内で一番きれいな川です。

四十八瀬川を左手に、畑地や田んぼを右手に、正面に丹沢の山々の美しい景色を見ながら、川辺の小径を歩きます(下図)。9月中旬には真っ赤な彼岸花が彩り、秦野市の花の名所のひとつです。



塔ノ岳、鍋割山を源とする四十八瀬川の瀬です。このような瀬が四十八もあるのが名の由来です。



四十八瀬川の瀬

四十八瀬川から離れ、今年開通した新東名を下に見、秦野の観光農園や田園風景の小径を進むと、「県立秦野戸川公園」へ出ます。ここで昼飯を食べ。公園のランドマークの“風のつり橋”を渡ります。



県立秦野戸川公園のランドマーク“風のつり橋”

色づき出した丹沢の山々と下を流れる「水無川」の流れ、秦野台地が大きく広がっています。名物の“ザル菊”も見頃でした。



本日参加のみなさまと



県立秦野戸川公園の名物“ザル菊”

ここから、水無川の緑地を下り、市内で1軒のみ残っている作り酒屋「金井酒蔵店」に寄り、バスで渋沢駅に戻り解散しました。

(文と写真：田邊 博仁)

再び計画されたわけがわかりました。

初めて参加しました。小田急沿線に住んでいますが、スタートの「渋沢」駅に降りたのは初めて。沿線で標高が一番「高い駅」であり、地元の共有地を駅に提供したことなどを知り、興味深かったです。

駅近くの「国栄稲荷神社」や「矢倉沢往還碑」などを見た後、「四十八瀬川」へ。秋晴れの下、大山一帯の山々がきれいに見えました。

予約してもらっている昼食の時刻に間に合うようにと、急ぎ足で川沿いの道を歩きました。北へ向かうにつれて紅葉が赤みを増して楽しめたうえ、作業をしていた地元の方に交通量の多い道のショートカットを教えてもらうなど、愉快でした。

途中では野鳥のさえずりも聞こえ、4年前に好評だったコースをもう一度計画したという理由がわかりました。

昼食は大きなかき揚げに驚き、蕎麦もおいしく人気の店であるはずでした。

午後からは「神奈川県立秦野川公園」の大吊り橋や菊園を散策した後、バスで移動。駅と目的地の間でバスを利用することはありますが、今回のように途中で公共交通機関を利用するのも、場所によってはいいアイデアです。

最後の「金井酒造店」は、前はできたという試飲が今回はコロナ禍で無理。渋沢駅で解散しましたが、秦野駅では金井酒造の酒を味わえる売店が期間限定でオープンしていて、個人的には帰りにその店に寄って楽しんできました。

(文：畑野 祐一)



表丹沢の山々 (写真：田邊)



金井酒造店 (写真：田邊)

フットパス専門家講座

多摩丘陵の12古街道フットパス① 八幡太郎・源義家が歩いた奥州古街道

〔講師：古街道研究家 宮田 太郎〕

北海道の皆さんと歩いた 中世小山田氏の馬牧跡と鶴見川水源地

12月7日（水）天気：晴 参加人数：18名

「今までに行った場所で、本当に一番の素晴らしいところでした。感動しました！」と、町田市小山田の奥州古道フットパス・ウォークに4人のお仲間（女性陣）を北海道から連れてきてくださった小川浩一郎さんから、とても嬉しいご感想をいただきました。北海道の全域のみならず全国、そして海外までフットパス遠征しておられる小川さんがそう思われた理由は何だったのか。もちろん、今まで行ったところが一番…というのは、全国で？関東で？いや町田近辺で？…そこまではお伺い出来なかったのですが、いずれにしても町田市域においての最良のコースである「奥州古道コース」。北海道の皆さん、東京・多摩・町田エリアから集まった皆さんと共に楽しめたことで、2022年を締め括るには最良の一日になりました。

実は事前に発表していたコースは、寒中であることも考慮して八王子市の「京王堀之内」から歩く「古代甲州道」だったのですが、小川さん一行が来られるとお聞きし、急遽、多摩丘陵で最も古代・中世の風景や遺跡・伝承が残る唐木田・小山田コースに変更したのでした。ところが、連絡が不行き届きだったようで、北海道の皆さんは京王堀之内駅に來られてしまうというハプニングもあり、ご迷惑をおかけしてしまいました（お詫び）。幸い携帯電話ですぐに連絡がつき、双方の駅がわりと近いこともあり、タクシーで駆け付けてくださり、ほっとした次第です。

コースは小山田急多摩線「唐木田」駅南側に広がる「東京国際カントリークラブ」の中の古道跡へと進み、また唐木田駅に戻る約6 Kmの行程。一帯は平安時代末期～鎌倉時代初めにかけて、鎌倉幕府の有力御家人となった小山田氏の居住地域であり、馬の飼育や調練のための流鏑馬（やぶさめ）馬場、馬駆けの道が集中するエリアです。



小山田氏の馬駆け場跡の一つ（地元伝承）

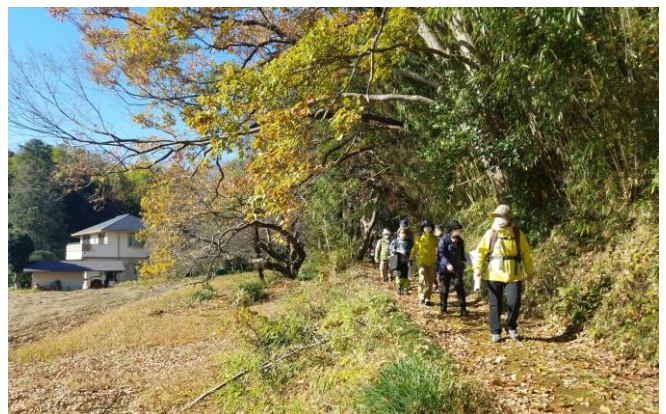
小山田六人兄弟の三男の重成は、後に現在の川崎市麻生区や高津区一帯に領地を持って稲毛三郎と名乗り、北条政子の妹を娶り、源頼朝とは義兄弟でもある身内人となりました。小山田は彼ら兄弟が育った故郷でもあります。それ以前の時代から京都から東北の仙台多賀城（陸奥国府）に続いた「奥州古街道（奥州古道）」のルートにもあたります。平安時代には東日本の荘園へと向かう西国の貴族たちや役人、僧侶が往来。さらには東北地方で育てられた馬を朝廷に献じるための古街道でもありました。

また、源頼義や義家（八幡太郎）が軍勢を率いて何度も往来した峠越えの長い道でもあります。その伝説は小山田地域のみならず、町田の木曽・日野市百草・府中市の大國魂神社周辺へと一直線に続くように残り、当時のルートを物語っています。

また下小山田のゴルフ場内の切道しの地層には、当時の踏み跡も延々と続くかのように残されており、実はとても貴重な歴史文化財ゾーンなのです。



小山田緑地の奥州古街道を歩く



大久保台の小径は日差しも柔らかい

フットパス当日はお陰さまで快晴となり、大妻女子大の隣接地にかつてあった棚原城跡を通る鎌倉道に入りました。農地との境目の垣根状の樹間から、まるで切り取った額縁の中の一幅の絵のような「鶴見川源流の原風景ポイント」があり、みなさまと遠くの相模大山や富士山を眺めました。タイムマシンに乗って平安時代に遡ったような景色に思わず歓声が上がりました。また、そこにある「多摩よこやまの道」の解説板の一つ「小山田氏物語の解説板」も私が想いを込めて作成したもので、手作りの資料と共に紹介させて頂きました。



鶴見川源流の原風景ポイント

その先の展望地＝通称「語り部の丘（心温まる六部塚伝説や巡礼の道のロマンを語る丘）」では、巡礼街道（①宝暦年間の武相観音巡礼道 ②西日本と東日本の霊場や有名な社寺を巡る東西巡礼古道）のことや実際に見つけた石塔の話、鎌倉幕府の末期に行われた元弘の役（1333年）の古戦場の話、平安時代の奥州古道の人馬往来の踏み跡（切通しに残る古道遺構）、戦国時代の武田信玄家臣団の隠れ里のこと、小山田氏の居城や調練馬場跡（「都立小山田緑地・馬場窪」）、小山田小太郎の隠れ穴、武士と地元の乙女との悲恋伝説、



晩秋の小山田緑地の奥州古街道を歩く

太田道灌の陣城、下小山の鶴見川水源地…と、それは実に豊富な歴史に包まれた美しい風景が残るエリアを楽しみました。

このコースは、自分自身も大好きなコースであり、毎年春や秋には必ず実施しています。また今年も皆さまからのご要望があればぜひ開催し、この素晴らしい歴史遺産風景をまた歩きたいと思います。（文と写真：宮田 太郎）

初めてのフットパス

初めてのフットパス、大変感激しました。石清水八幡宮で元服し、八幡太郎義家と称した源義家の話からこのツアーは始まります。平安時代末期の後三年の役で奥州征伐を果たすも、義家の勢力を恐れた朝廷は義家に一切の支援をしなかった。にもかかわらず、義家は私財をはたいて部下の功を賞したことが坂東武者の信頼を厚くし、後の頼朝の鎌倉幕府創設につながる。義家が奥州征伐に向かったのが、奥州古道であったというのが今回のツアーのプロローグです。

この奥州古道のある現在の町田・多摩・八王子一帯を支配していたのが横山一族で、その姻戚関係にあった小山田氏は、ここに城を構え、頼朝時代は大そうな勢力だったようです。ところが、世は執権北条氏の時代になり没落したものの、戦国時代になって武田信玄の家臣として再び活躍。そして、江戸時代から今日へと続く歴史を持った地が当地であります。

私は2年前に町田（原町田1丁目）に越し、町田は新宿にも横浜にもアクセスはいいし、駅前にはぎわっている都心に近い住宅地という印象でした。今回このツアーに参加し、この地の歴史を学び、浅学を甚だ恥じ入るばかりです。宮田先生には、鶴見川水源地、古道断面露出、「大泉寺」、「小山田緑地」や「よこやまの道」等時々冗談も交えながら、説明いただき、その知識の豊富さには驚くばかりでした。次回、別の古道探索にもぜひ挑戦してみたいと感じた次第です。

（文：延吉 良一）



アサザ池にてご参加のみなさまと（写真：田邊）

他のまちのフットパスをみてみよう 麻布十番てどんなまち？

【講師：みどりのゆび】

麻布十番は六本木、広尾、しろがね、 赤坂を繋ぐ

12月17日（土）天気：晴 参加者：10名

麻布十番は掴みどころのないまちです。外国人が闊歩するお洒落な通りと、普段着姿のファミリーが老舗店舗で買い物をする下町。大使館や高級住宅街と、川沿いに残る昭和レトロ街。幸運にも今回は、会員でかつて住民だったという桐澤宏さんにご案内をしていただき、本当に面白い地域だとわかりました。

麻布十番の歴史には二つの流れがあります。一つは「浅草寺」に次ぐ古い名刹「善福寺」が平安時代に弘法大師によって開山され、それによって門前町が開けたことです。そしてもう一つは徳川五代将軍綱吉が麻布十番の南に白金御殿を建てたときに遡ります。このために古川の改修工事があり、普請のための人足場が古川の河口から一番、二番と割り当てられ、麻布は十番であったことで「麻布十番」となりました。綱吉といえば元禄時代、麻布にも建てられるようになった下屋敷に生活物資を運ぶ舟や馬の交通の拠点として麻布十番は栄え、商店街も発展したのです。

今回の麻布十番お薦めのコースです。

コース：「麻布十番」駅→パティオ→鳥居坂→饅頭坂→芋洗坂→六本木ヒルズ→毛利邸跡→櫓坂→桜坂→さくら坂公園→六本木高校(内田山)→南部小学校→麻布十番→暗闇坂→オーストリア大使館→阿部美樹志邸→一本松→西町インターナショナルスクール→がま池→中里長屋→大黒坂→麻布十番→十番稲荷→ランチ：満点星本店→善福寺→仙台坂→仙台坂上→安藤教会→麻布氷川神社→有栖川公園→「広尾」駅



毛利庭園の紅葉

今回のコースは、古川一の橋の再開発予定地から始まりました。古川は渋谷川が渋谷区から港区になるときに「古川」という名称に変わりますが、一の橋の崖下の川沿いに大正時代から残る銭湯や昭和風家屋など懐かしい風景が残っていました。



大正時代から残る銭湯

麻布の謎は深いです。

テレビドラマでもよくお目見えの「パティオ」にある赤い靴をはいた女の子の像。きみちゃんはアメリカに渡ったとされていましたが、実は結核で「鳥居坂教会」でなくなっていました。



パティオにある赤い靴の女の子きみちゃん像

「ロア」のある六本木大通りも再開発が予定されています。私たちの懐かしい六本木の姿もなくなるようです。

「六本木ヒルズ」の「毛利庭園」の赤紅葉を回ってけやき坂を「さくら坂公園」に渡ると、外国人街になります。昔の内田氏の上屋敷であった高台（内田山）から下って雰囲気ある暗闇坂へ。「オーストリア大使館」があり、「桐澤邸」はその向かい側にあったそうです。



オーストラリア大使館前

歴史的伝説の残る「一本松」、コンクリート製で昭和洋館建築の「阿部美樹志邸」、「元麻布ヒルズフォレスト」、「西町インターナショナル・スクール」などの高級外国人街。昔は武家屋敷にあった「がま池」、がま池が流れ込む谷間に残る昭和レトロの「中里長屋」。とにかく面白い。



元麻布からの六本木ヒルズ

老舗レストラン「満天星」で洋食ランチ、老舗商店で買い物を堪能。昼食後は名刹「善福寺」で弘法大師ゆかりの「柳の井戸」、樹齢750年の天然記念物「逆さ公孫樹」、福沢諭吉の墓やアメリカ総領事ハリスの記念碑などなど、遺産だらけです。

仙台藩の屋敷跡前の仙台坂上に上ると、坂が集積するこの尾根の頂点が麻布と広尾、白金の分岐点ということを実感。平将門の乱頃創建された「麻布氷川神社」、函館戦争に参加した外交官安藤太郎夫妻の自宅である「安藤教会」、そして「有栖川公園」を通過して終点広尾駅に着きました。東京のフットパスの神髄をつくような面白いコースでした。(文：神谷 由紀子 写真：田邊 博仁)

麻布十番思い出ある記

中学から結婚までの年月を過ごした麻布。思い出の詰まっている街を歩きました。

地下鉄「麻布十番」駅から十番商店街を進むと、「豆源」、たい焼きの「浪花家」、「更科そば」、「小林玩具店」など、古くから営業を続ける店も残る中、洒落たカフェなどが目につきます。しかし、地下鉄が出来て羨ましい。なにせ昔は“陸の孤島”。バスしかなくて、朝早いと大きなザックやスキーを担いで六本木まで歩いたものです。

十番通りから右折、鳥居坂を登ります。「国際文化会館」、「東洋英和女学院」は、その先の「鳥居坂教会」と共に、一帯の落ち着いた雰囲気を保っています。

六本木を経て訪れた「六本木ヒルズ」は正に新しい地域、と思いますが、開業は2003年とか。自分の古さを実感します。

そこから麻布十番の方に戻って、暗闇坂を登ります。坂の右側の崖上、実家のあった一帯は、十軒位並んでいた家並みは姿を消し、大きなマンションに変わり、その上、崖の一部は削られていて「暗闇坂」は名ばかりの様相です。

“逆さ公孫樹”…枝から多くの気根が垂れ下がる様子が、枝が逆さまに生えているように見える…で有名な「善福寺」は静謐を保ちながら、参道から見ると本堂の屋根越しに一寸（妙に）目立つ高層マンションが迫り、落胆の思いもあります。が、都内で「浅草寺」に次ぐ古刹を眺め続ける樹齢750年の公孫樹の姿は、ずっとそこに居続けて欲しいと願う私の気持ちを充分に受け止めてくれているようでした。(文：桐澤 宏)



参道からの善福寺とマンション (写真：田邊)



農と緑の管理

豊かな里山の景観を享受し護るために、 私たちにできることは？

「みどりのゆび」の活動舞台でもある小野路。その明るく開かれた谷戸では美しい田園風景が展開し、鎌倉古道、布田道、大山道など、重要な古街道が交差するエリアです。ここで「みどりのゆび」が管理している宿緑地と竹林を健全に維持していくことは、大きな課題となっています。

そこで、30年間に渡り竹林の保全・活用を实践されてきた平石真司さん（NPO法人「日本の竹ファンクラブ」理事長）をお招きし、その活動を支援する「ライフラボ多摩」の松村正治さん主催による講習に参加しました。

『1日で竹林管理のポイントを学ぶ 講習会』を受講。

9月19日(月・祝) 天気：雨・曇 参加者：29名

当日は大雨の中、午前中は実際に竹林の様子を平石さんにご覧いただき、その現場診断を踏まえて、午後は小野路公会堂で竹林管理の基本についてお話を伺いました。

●竹林の診断結果は？

竹林全体に、竹の太さや新旧のばらつきが極端で、枯れた竹も目立つ。

また、下段の竹林では竹の生えてない場所があるが、水捌けがよくないため地下茎が回ってないことも考えられる。景観を維持する意味でも、また春のタケノコ掘りなどの楽しみのためにも適当な時期の間伐が必要。

●竹の適正密度は？

100m² (10m四方) につき、30～40本が基本。現在の竹林を5,000m² とすると、2,000本を残して間伐する必要がある。この密度は景観には理想的であるが、タケノコを多く出そうとするなら、間伐を少なめにしても、いずれにしても、林床への適当な日当たりと風通しが確保できて、健全な竹林を保つための間伐は大切な作業である。

●間伐の時期と伐採した竹の処理法は？

竹が生長を休んでいる秋から冬にかけての伐採が最適。チェーンソー（五人力）で切り倒して3mの長さに切り揃え、枝葉を落として天地を揃え、「竹保垣（たけほがき）」を作ることを提案。切ったまま野積みすると、足場がなくなるので注意したい。小枝のチップや竹の葉は地表に撒くと、堆肥として利用できる。

●春の管理について

タケノコの掘り穴などは30cmほど掘り下げ、お礼肥として米糠や化成肥料を埋めておく。

●5月の楽しみは“穂先タケノコ”

4月に取り残したタケノコは、この時期3mほどにも伸びているが、この穂先1mほどが美味。むいた柔らかい甘皮は煮て乾燥させると“タケノコスルメ”と呼ばれる珍味に。また白い甘皮を川に沈めるとカワニナの餌になり、結果、ホタルの繁殖にもつながる。

穂先タケノコを切った後の竹の節には“命の水”と呼ばれるおいしい水がたまるので、この水でコーヒーを入れたりする楽しみも。

●7月は新しく伸びた余分の竹でお楽しみイベントなども

若い竹は柔らかいので、伐採して置いておくと腐って処理しやすい。この時期、こんな青竹を利用して竹馬や竹コップリ、カップなどを作るイベントを企画。ファミリーで参加できる楽しい環境教育の場にも活用できる。

『受講の後で』

竹林の適切な管理は、竹の生長の仕方を知りつつ、1年中を通じて計画的に取り組むことが重要だということです。美しい景観の保全と共に、タケノコ掘りだけではないその都度の楽しみも生むこの豊かな環境教育の場を活用して、今後の積極的な活動が期待できます。（まとめ：横山 禎子）

現状を分析して竹林管理が再スタート

10月16日(日) 天気：曇 参加者：5名

【竹林整備】この日は先月講習会で教わった事を元に作業を行いました。

まず山の上段で竹の本数を測ったところ10m四方に60数本あり、30～40本が適正なので相当数切らなければなりません。根が廻っていないのではないかと指摘を受けた下の段は、やはり地下茎は少なく水捌けも良くないけれど傾斜や凹みがあるので、排水路を掘る程ではないとの結論になりました。

講習会では正しい管理の仕方を教わり、少し先が開けた気はしたものの、作業は結構大変だなと感じました。

でも「竹の楽しみ」の話になると楽しくて、途端に皆の顔が明るくなりました。特に飲むと灰かに甘味があるという“竹水”は、初めて聞く言葉だったので興味がわきました。

竹水を調べてみると飲料水として市販されていて、又保湿効果があるので化粧水としても利用されているとのことです。

5月に「穂先筈の日」と「竹水の日」を設け、この日は竹林に大勢集まって皆で竹水を味わい、お肌につけてピチピチスベスベになったら、素敵な1日になると思いました。

(文：鈴木 由美子)

恵泉女学園大学との協働作業報告

10月22日(土) 天気：晴 参加者34名(当会から4名)

〔稲刈り〕 予定の10月8日は、数日間続いた雨で稲が濡れ田水も多いため翌週に延期。翌週15日も事前の降雨で再度延期され、晴天続き後の22日に実行された。学生・教員主体の参加者数は例年並みながら、稲の本数と実りが少ないため例年より早く刈り終わった。

水田は当会緑地から北に入る狭い支谷戸のなか、陽当たり悪く水調整が難しい立地条件。今年6～7月雨不足で8～10月雨多く、日照不足の気象も不作要因。また無肥料・無農薬に加え、草取り1回の省力栽培も原因となったか。稲は分けつが少なく丈も低く高さ不揃いで、コナギにびっしり覆われた水田は、収量が少ないのは勿論、里山景観としても如何かと思う。今後は、土壌改良や水管理など根本的対策から取り組む必要があるように感じた。

それでも稲刈りは、田圃からの恵みをいただく有り難い時間。今年から参加したN会員ファミリー3名も、自分達で田植えした稲を収穫して大いに楽しんでいた。しかしコロナ第8波もあり、米作り最後を飾る餅搗きが3年連続中止となったのは残念。

(文：合田 英興)



稲刈り後、恵泉女学園大学のみなさまと
(写真提供：恵泉女学園大学)

11月13日(日) 天気：晴 参加者：10名

〔竹林整備〕 9月19日の竹林専門家講習会を参考に、参加人数を竹林の上段、下段とに分けて行いました。

上段では、10月16日の作業で目印のテープを張った竹、細い竹などを、又下段でも混み合っている、色が白っぽくなっている、細くて古い竹など

をチェーンソーで切り倒しました。切った竹の枝葉は、梢の方向から叩き落とすようにとの事でしたが、これが以外と難しく、結局ナタで切り落とすことに。また幹は3メートル丈に揃えて、以前から積んである場所に重ねました。

竹林の理想は、見上げた時、竹と竹の間から、空が見えるのがベストだそうです。こうすると、林床の日当たりもよくなって生長が促され、もちろんタケノコもよく出るということです。

この日は嬉しい発見がありました。竹林の入り口の大きな木がクリの木だったということ。たくさん落ちていたイガで、それとわかりました。来年は栗拾いも兼ねた竹林整備ができるというわけです。

(文：名城 千穂)

12月11日(日) 天気：晴れ 参加者：9名

〔竹林整備〕 〔草刈り〕 久々に参加者が多く、竹林で共に汗を流し作業した結果、あちこちで倒れっ放しの竹が片付けられ、不要な竹も相当除伐されて、荒れていた状況が一気に改善されました。

また、併せて刈払機2台で緑地導入路から集会地を中心に草刈りを実施し、布田道沿い、切通しから竹林への山道、下段竹林の一部でも草刈りと灌木除去を実施しました。

竹林はあと2回くらい作業を繰り返せば、全体に整備された状態でタケノコの季節を迎えることが出来る筈です。

もうあと一息二息、頑張りましょう。

(文：合田 英興)



竹林整備の様子。茶色くなった竹も目立つ。(写真：横山 禎子)



竹林整備に参加のみなさまと (写真：神谷 由紀子)



NPO法人「みどりのゆび」2023年4月～7月 フットパス・スケジュール



持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：1000円（イベントによって変更あり） 申込：みどりのゆびHPまたは下記メール
★変更などがある場合も。必ず事務局に確かめてからお出かけください。 ☎ 042-734-5678 📠 080-5405-3904（神谷）

うれしいことに、初参加の方が増えてきました。今期も、一緒にフットパスを楽しみましょう。

●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、昼食の予約など保証できなくなります。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。

メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-854 携帯：080-5405-3904（神谷）

4月9日(日)

【集合】

京王線
「高尾山口」駅
10:10AM
10時24分発の
バスに乗りま
す。

【昼食】

弁当持参

申込締切

4月2日まで

『フットパス専門家講座：スマレ博士と歩く春の高尾山と植物観察』

【講師：植物研究家 山田 隆彦：高尾山のスマレ観察】

【内容】高尾山のメインコースではありませんが、人混みを避けた裏高尾のコースで大垂水峠から小仏城山まで登り、日影沢林道を下ります。ニリンソウ、アズマイチゲなどのスプリングエフェメラル、各種スマレやコチャルメルソウ、春の植物を観察します。

【コース】「高尾山口」→（バス）→大垂水峠----（1:10）----小仏城山（茶店が開いていれば温かいものが食べられます）----（0:55）----<日影沢林道>----日影沢キャンプ場----（0:15）----日影沢バス停→「高尾山口」（ ）内は登山コースタイムです。



タカオスマレ



山田先生のスマレ関連の著作のご紹介

『日本のスマレ探訪・72選』
（太郎次郎社2019年）

『スマレハンドブック』
（文一総合出版2010年）

4月22日(土)

【集合】

JR「東京」駅・
京葉線ホーム
（1・2番線）
8：45AM
※中央線ホーム
から約20分。
9:00発の特急乗
車。

【昼食】

現地「市場食
堂」

申込締切

4月15日まで

『他のまちのフットパスをみてみよう：春の海風を感じながらの「鵜原理想郷」』

【講師：小林 道正：リアス式海岸が続く千葉勝浦の景勝地・大正ロマン散策】

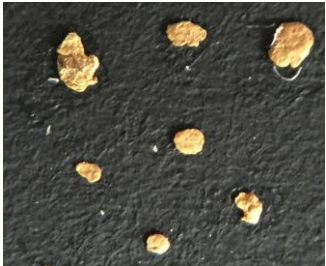
【内容】430年の歴史を誇る勝浦朝市通りと勝浦港を巡り、昼食は海鮮丼で舌鼓をうち、午後は大正時代に文学別荘地として開発計画のあった「鵜原理想郷」を散策。与謝野晶子や三島由紀夫がこの地を訪れた資料を展示する「鵜原館」を見学する。

【コース】JR「東京」駅（9:00）→<特急わかしお3号>→勝浦駅→朝市通り→勝浦港・市場食堂(昼食)→勝浦駅→<電車利用>→鵜原駅→鵜原海岸・東京学芸大学附属小学校「至楽荘」→鵜原理想郷→鵜原館→鵜原駅16:08→勝浦駅17:05→<特急わかしお18号>→「東京」駅18:40
（勝浦駅16:45→<新宿わかしお号>→新宿18:29）



5月20日(土) 【集合】 大江戸線・有楽町線「月島」駅 ローソン月駅前店 10:00AM 【昼食】 各自（もんじゃ店など） 申込締切 5月13日まで	『フットパス専門家講座：佃島、月島そして晴海へ/江戸のまち、明治・大正・昭和初期のまちの変貌をめぐる』 【講師：浅黄 美彦：江戸のまち佃島、明治大正の埋め立て地のまち月島そして昭和の埋め立て地晴海。それぞれのまちの歴史と変遷を通り・路地・親水堤防・運河沿いを歩き巡ります】 【内容】スタートは江戸の漁民のまち佃島。渡船場跡、船溜まり、住吉神社そして漁師の家、佃小橋や堤防からの眺めを楽しみ、佃煮屋に立ち寄ります。 次は明治以降埋め立てられたまち月島へ。石川島播磨の造船工場などに働く人のための庶民のまちを歩きます。佃島から勝どきに向かう、どこまでもまっすぐな道「月島西仲通り商店街」の看板建築とタワーマンションのコントラスト。そこから直角にある路地沿いの長屋群のある月島。最後に訪ねるのは黎明橋を渡り昭和の埋立地晴海へ。朝潮運河沿いの遊歩道を歩きながら、埠頭と旧日本住宅公団の晴海団地跡を眺めます。 【コース】ローソン月島駅前店前の小広場 → 佃島 → ちらりと大川端リバーシティ → 月島（西仲通りと路地）→ 晴海（朝潮運河沿い遊歩道）→ 「月島」駅  
5月30日(火) 【集合】 JR「高尾」駅 北口改札口前 広場 10:00AM 【昼食】 自由昼食 申込締切 5月23日まで	フットパス専門家講座：八王子の湯殿川流域フットパス』 【講師：古街道研究家 宮田 太郎：中世武士団・横山党と鎌倉一族の伝説地・古道を探索する】 【内容】高尾山麓から湧き出だす湯殿川は片倉の東で浅川に合流する多摩川の支流です。はたして山形の湯殿山・月山信仰に関係している故の名称なのでしょうか。平安時代末期に活躍した鎌倉権五郎景政、戦国時代に八王子城で戦った近藤出羽守の館城、出羽国と関係した横山党ゆかりの大日堂、山形の長井市と縁のある鎌倉時代の長井氏など、つながりを推理しながら多摩丘陵の西のはずれを探索しましょう。 【コース】JR「高尾」駅北口改札口前広場に午前10時集合→みころも聖堂と菅原道真像→鎌倉街道山ノ道→狭間のイトーヨーカ堂内の飲食店やフードコートで自由昼食→鎌倉権五郎伝説の御霊神社→浄泉城跡→龍見寺→湯殿川の和合橋→「和田」バス停。約5.5km。解散は15時半頃を予定。  湯殿川に沿う古代の馬牧の丘

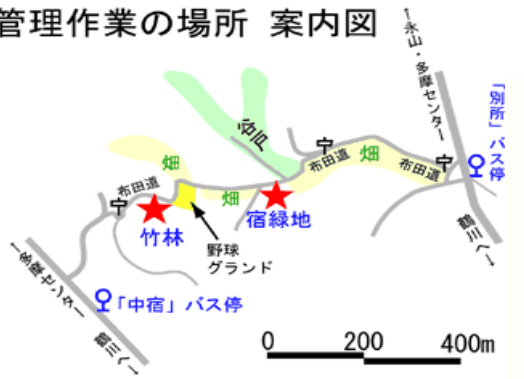
6月4日(日) 【集合】 JR「石川町」 駅 南改札口前 10:00AM 【昼食】 現地レストラン 申込締切 5月28日まで	『他のまちのフットパスをみてみよう：異国情緒の横浜山手と元町を歩く』 【講師：田邊 博仁：山手丘陵の尾根道と坂道を廻り、歴史を活かしたまちづくりを知る】 【内容】丘の上からの眺望、緑豊かな公園、閑静な住宅街、歴史あるミッションスクールや教会の建物、昭和初期の歴史的な洋館も数多く残され、観光客も多く訪れる地区です。幕末からの外国人居留地時代、関東大震災(1923)の壊滅的被害、戦後の進駐軍接收時代を経て、昭和40年代後半から、本格的なまちづくりが始まり、現在の街並みが形成・維持されています。 子どもの頃から慣れ親しんだ横浜山手・元町ですが、改めて、歴史を学びながら、じっくり歩いてみます。また、バラの季節を選びましたので、洋館の庭園と山手通りのバラを楽しみながらの散策です。 昼食は 山手か元町を予定しています。 【コース】①JR「石川町」駅・南改札口 (10:00)→②山手イタリア山庭園→③山手公園→④山手本通り→⑤元町公園→⑥元町通り→⑦外国人墓地→⑧港の見える丘公園→⑨フランス山→⑩みなとみらい線「元町・中華街」駅 (15:30 解散) 山手イタリア山庭園・外交官の家
6月25日(日) 【集合】 JR中央線・武蔵野線 「西国分寺」駅 改札口 10:00AM 【昼食】 現地レストラン 申込締切 6月18日まで	『フットパス専門家講座：武蔵国分寺跡から府中の国府へ』 【講師：高見澤 邦郎：古代の史跡を巡り、水と緑を楽しむ】 【内容】南北に接する「府中」市と「国分寺」市はその名の通り、奈良時代に武蔵国の国府が置かれ寺院が建立された場所です。 「西国分寺」駅から南東へ行くと、住宅団地・公文書館・のびやかな武蔵国分寺公園などがあります。旧国鉄・鉄道学園の跡地を都が買収して整備した一帯です。 公園をゆっくり歩き崖線を下ると、真姿の池・お鷹の道湧水に。「国分寺跡資料館」には発掘品などの歴史資料が展示されています。 次いで現在の国分寺を訪ねた後、国分僧寺跡・国分尼寺跡と回りましょう。その後バスで府中駅へ出て駅周辺で遅めの食事。 昼食後は、京王線に南北に交差する馬場大門ケヤキ並木(天然記念物)を歩き、くらやみ祭りでも有名な大國霊神社へ。神社周辺での発掘調査が進み、国衙跡と国司館跡が展示されていますので見学。 15時頃「府中本町」駅(南部線・武蔵野線)で解散の予定。 国分寺崖線の下り坂以外はほぼ平坦な7～8kmほどの道のりです。 お鷹の道の湧水 【コース】「西国分寺」駅改札集合→東山道武蔵路跡・都立武蔵国分寺公園→お鷹の道湧水園・資料館・史跡の駅「おたカフェ」→国分寺界限(仁王門・楼門など)→史跡／武蔵国分僧寺跡→史跡／武蔵国分尼寺跡→黒鐘公園入口からバス乗車／15分程で府中駅へ。再集合後、馬場大門ケヤキ並木を経て大國霊神社(ふるさと府中歴史館)→史跡／武蔵国府跡(国衙地区)→同／国司館・家康御殿跡(国司館地区)→「府中本町」駅にて解散

7月9日（日） 【集合】 東京メトロ、都営地下鉄 「麻布十番」駅 1番出口または 4番出口・オスロ-コ-ヒー前 10:00AM 【昼食】 現地レストラン 申込締切 7月2日まで	『他のまちのフットパスをみてみよう：麻布十番はどんなまち？』 【講師：みどりのゆび：謎の多い麻布十番から白金】 【内容】麻布はますます謎が深いです。前回かなりわかった！と思ったのはとんでもない！何故東京の真ん中にこんな不思議な地形や生活が残っているのでしょうか。今回は前回の仙台坂上の手前から南に白金まで下ります。白金も北白金の下町風情と南白金のファッションナブルタウンの対比が面白いまちです。白金商店街は恵比寿三丁目交差点まで古い商店街が続きます。そこから「東京都庭園美術館」まで行くか、「白金台」で終点にしたいと思います。 【コース】「麻布十番」→「韓国大使館」手前→絶江坂→薬園坂→白金氷川神社→白金商店街→昼食（tenementか洋食ハチロー）→明治坂→蜀江坂→「東京大学医科学研究所付属病院」→（東京都庭園美術館）→「白金台」駅  白金 古い商店街（昼食所）
7月22日（土） 【集合】 JR青梅線「沢井」駅 10:10AM ※沢井駅10時着の電車があります。 【昼食】 清流ガーデン「澤乃井園」にて 申込締切 7月15日まで	『他のまちのフットパスをみてみよう：涼風をもとめて御岳渓谷を歩く』 【講師：小林 道正：奥多摩の自然が生んだ澤乃井と玉堂を楽しみ、信玄の隠し金山の名残を探索する】 【内容】小澤酒造のホームページには「日本に米があり、奥多摩に名水がある限り、澤乃井は美酒を造り続けてまいります。」とある。奥多摩の地形は数億年から数千万年前に堆積した地層が作り出したもので、この地層中を長い年月をかけて移動するミネラル成分の少ない超軟水が美味しい日本酒を造り出すのである。川合玉堂は伝統的な日本画の本質を守り、清澄にして気品のある独自の作風を展開しつつ、明治・大正・昭和の三代にわたって、日本学術文化の振興に貢献した。自然を愛し人を愛した玉堂の人柄は土地の人々からも慕われ、昭和19年から昭和32年までの10余年を過ごした御岳渓谷に美術館が建てられた。そして今、多摩川は一部の人々の間で「砂金が採れる」ことで話題になっている。遙か上流にあった「信玄の隠し金山」で有名な「黒川金山」に由来している。 【コース】JR「沢井」駅→多摩川<金山の名残探索>→清流ガーデン澤乃井園<昼食>→小澤酒造<酒蔵見学>→御岳渓谷<散策>→玉堂美術館→JR「御嶽」駅（16:00頃解散、16:12発青梅行、16:32特別快速東京行）  御岳渓谷  玉堂美術館  砂金の粒

「みどりのゆび」2023年4月～7月 CSAスケジュール

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

集合：現地10時 持ち物：弁当、水筒、軍手、長靴（必要なら）

2023年	 「緑と農の管理」	管理作業の場所 案内図 
4/16 (日) 4/23 (日) 4/30 (日) 5/7 (日) 6/3 (土) or 6/11 (日) 7/16 (日) 9/3 (日)	筍調査 伐採（会員ののみ） 筍まつり 穂先竹 伐採 緑地草刈 竹林整備（穂先竹収穫含む） 緑地草刈 緑地草刈 緑地草刈	

NPO法人みどりのゆび ホームページのご紹介

ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントの、スケジュール、カレンダー、申し込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

フットパスガイドマップ4冊（改訂版発行有）

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」¥500+税、「多摩丘陵FootPath2」¥500+税、「まちだフットパスガイドマップ」¥800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」¥700+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。



～ 編集後記 ～

毎号、堪能した季節とあのFP、このFPを追体験しながら、送られてくる原稿にいち早く読み耽る幸せな時間をありがとうございます。とはいえ、事実関係を調べたり、文字校正したりはシビアに。レイアウトする田邊さんに送付するデータは“なるハヤ”で。里山や都会の時間を体感する足と、深堀りの情熱に支えられたレポートをお楽しみあれ。（横山）

横山さんから原稿を受け、文章と写真でページレイアウト作成し返却。ここから編集プロの洗礼！真っ赤に赤入れされた校正記号を読み解き、再校、三校・・・やっと校了。寄稿者のみなさまの思いが表現できているかの最終確認後、印刷、配布へ。やっと、“なんじゃこりゃ？”の赤字の校正記号から解放され、完成された会報をご覧あれ！（田邊）

NPO法人「みどりのゆび」

・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
 ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
 ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>